

●岡崎市総代会連絡協議会 総代会長会研修

りた職員が講師、ファシリテーターを務めました。研修前半では、事前に全総代会に実施したアンケート結果をもとに、これからの町内会のありかたについて他市の事例を交えながら、りた・深田(拠点運営統括責任者)が講義をしました。後半では、各グループに1名ずつりたの職員をファシリテーターとして配置し、「担い手の確保・育成を増やすための方策」「町内活動に対する関心を高める方策」という課題に対して、意見交換を行いました。終了後のアンケートでは高い満足度を得られたことが確認できました。



●岡崎市市民協働実務担当職員研修

岡崎市の職員を対象とした市民協働研修において、りた・天野(事業企画マネージャー)が講師を務めました。市民協働の基本的な考え方や政策的な位置づけを説明した後、具体的な協働事例として10年前からりたが取り組んできた松應寺横丁のまちづくりを紹介し、これまでの経験を踏まえた協働の進め方やコツを解説しました。

後半はグループに分かれ、参加者それぞれの担当部署で実現したい協働プロジェクトを検討し、その中からグループごとに1案選び、実際にどんな人とのようなプロセスで協働を進めるかを掘り下げました。庁内の垣根を超えたつながりやNPO法人、民間企業との関係性といったソーシャルキャピタルの重要性を考えるきっかけを創出できました。



●愛知県「2023年度採用2年目職員研修(NPO・福祉)」

以前はNPOの現場体験として受け入れていた愛知県の採用2年目の全職員を対象とした協働研修ですが、新たに座学+ワークショップ形式の連続講座となり、その中で「まちづくり」分野の担当として、りた・天野が講師を務めました。

協働事例として、愛知県管理河川として初めて「かわまちづくり」の対象となった乙川の「おとがワ!ンダーランド」と殿橋テラスの取組について紹介し、協働の心得や得られる成果についてお伝えしました。



りた会員募集のお知らせ

りたは、市民が中心となり、専門家や行政と協働してまちをつくる社会を目指すNPOです。本法人の趣旨にご賛同いただける団体・個人の方々の入会をお待ちしております。

<正会員> 団体正会員 年額10.000円 個人正会員 年額 3.000円

△総会での議決権を持ち、NPO運営活動に直接的にご参加いただけます。

<賛助会員> 団体賛助会員 一口年額10.000円 個人賛助会員 一口年額 3.000円

△りたの活動に賛同し、支援するための会員です。会員総会での議決権はありません。

・入会いただいた方には、郵送にて本誌(年6回)を送らせていただくほか、法人運営に関わる会合(総会等)のご案内をお送りします。

・年会費は、申し込み時期に関わらず、毎年3月31日(本法人の事業年度末)をもって更新となります。

まちのミカタ

Litaracy

2024.07vol.128

発行・編集



特定非営利活動法人

岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6

TEL(0564)23-2888/FAX(0564)23-2898

http://www.okazaki-lita.com/

https://www.facebook.com/okazaki.lita/

8

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra/岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所/岡崎市各市民センター/シビックセンター/
FMおかざき/杉くんの駄菓子屋/cafeくらがり/松應寺

まちのミカタ

Litaracy

ーりたらしいー

128

2024年7月



情報ひろば活用研修@なごみん



人を巻き込む仕組みづくり研修@悠紀の里



花のとう支援事業@やはざかん



地域包括ケアシステム業務



三郷駅前周辺まちづくり意志決定支援業務



活躍人! 交流会@むらさきかん



カーボンニュートラル人材育成事業



地域とつながる協働交流会@よりなん

特集

2023年度のりた

2023年5月のCOVID-19の5類移行により、およそ3年強にわたる「パンデミック」状態に一区切りがつき、ようやくコロナ以前のように人々が集い、直接コミュニケーションする風景が徐々に戻ってきました(上記写真)。

一方で、その間の活動の縮小や中止を機に、参加者や担い手が減ったり、活動を継承する機会が減るなどして、定期的な行事の存続が難しくなったり、運営方法を見直さざるを得なくなった団体や活動が少なからず存在します。

オンライン会議ツールの普及により、対面によらないコミュニケーションが可能になった一方で、文字通り膝をつけ合わせて対話したり、一緒に汗を流したりしながら、時間と場所を共にして顔の見える関係を築くことの大切さを改めて認識する1年となりました。

本号では、2023年度にりたが取り組んだ、人と人、人と活動、人とまちをつなげるきっかけと仕組みづくりを通じた地域活力の向上、地域資源の活用、地域課題の解決に関する事業内容と成果を抜粋してお届けします。

数字で見る「りた」2023

決算額(経常収益)

2億400万円

基幹事業である地域交流センターの指定管理業務はじめ、地域包括ケアシステム支援業務、公園愛護運営会等設立支援事業など。また2023年度より新たにカーボンニュートラル人材育成事業が加わりました。

従業員数

58人

(常勤職員17人・パート等41人)
このほかに、プロジェクトスタッフもいます。(2024年3月末現在)

交流センター年間利用者数

約40万人

昨年度に比べて利用者数は増加し、年間の目標値を達成することができました。

ボランティア役務提供額(1027円/h換算)

360万円

「りた」の事業に関わっていただいたボランティアの延べ活動時間数を賃金換算して可視化。昨年度に比べ、130万円程度増額しました。(延べ4,193名3,506時間)

アウトリーチ(実績件数/目標件数)

150件/110件

市民活動団体だけでなく、地縁組織や企業、学校、支援センターなど多様な相手にアウトリーチを行い、事業への協力やマッチングにつなげています。

りたの「3つの主要テーマ」に対する成果

地域活力を高める

市民活動および地域活動の拠点施設(地域交流センター)の管理運営を通じて、市民自治・地域自治の礎となる地域の担い手を掘り起こし、市民活動団体による公益活動の場づくり、中学生・高校生・大学生の社会参加の場づくり、市民活動や地域活動へのボランティアマッチング(まちびとバンク)を推進しました。

日常的な窓口業務や情報の受発信、事業実施により蓄積されたネットワークを活かし、地域の課題解決や地域資源を活用する担い手を掘り起こし、市民協働型社会の実現に向けた活動を行いました。

【該当事業】地域交流センター指定管理、まちびとバンク ほか

地域資源を活かす

公園、鉄道駅などの公共空間、そしてそうした場所を積極的に活用する市民、団体、事業者を地域の資源としてとらえ、公共空間のより豊かな使われ方を見出し、その場所ならではの価値として意味付け、それらを具現化し、持続させるための活動と結びつけ、地域の魅力向上に貢献しました。

【該当事業】QURUWAシンポジウム運営業務、公園愛護運営会設立等支援業務、三郷駅前周辺まちづくり支援業務ほか

地域課題を解決する

少子高齢化、空き家の増加、防災、子育て支援など、山積する地域課題に対して、地域包括支援センター、社会福祉協議会、学区福祉委員会など既存の担い手との連携や、社会貢献意欲のある個人や団体、ボランティアなどの担い手の発掘およびマッチングを通じて、地域の課題解決を支援しました。

【該当事業】地域包括ケアシステム支援事業、下山地域運営組織設立支援事業、市民活動支援、カーボンニュートラル人材育成事業ほか

●カーボンニュートラル人材育成事業

(岡崎市ゼロカーボンシティ推進課委託業務)

2050年ゼロカーボンシティの実現に向けた脱炭素の気運を市域全体に広げるため、特に2030年、2050年という節目に、社会の中核を担う現在の小中学生から大学生までの世代において、単に環境問題として認識し、知識を身につけるだけでなく、「脱炭素視点」も踏まえた岡崎市の発展に貢献してもらえるような人材を育成することを目的として、体験講座の企画・運営、小中学校等の授業で活用する環境学習プログラムの作成、地域交流センターを基点とした環境啓発活動を実施しました。環境コンサルタント「グリーンフロント研究所株式会社」と協働したことで、作成教材に必要な情報を適切に盛り込むことができ、担当職員の脱炭素に関わるリテラシーを高めることもできました。また、各地域交流センターで啓発パネルを巡回設置し、来館者に対してカーボンニュートラルに関する興味を喚起し、脱炭素に向けて行動変容を促す具体的な情報を提供することができました。

●「名古屋市瑞穂公園陸上競技場整備事業」パークマネジメント活動業務(株式会社竹中工務店委託事業)

瑞穂運動公園の再整備を進めるPFI事業において、代表企業である竹中工務店は、公園のアクティビティを促進する仮設的な施設(仮称・PLOT)の基本設計にあたり、竹中工務店の設計部と名古屋工業大学・伊藤孝紀研究室を主な構成員(作り手)としてデザインチームを発足し、各種ワークショップを企画運営しました。デザインワークショップの成果として、PLOTのデザインが発案され、最優秀作品に選ばれた案を中心に基本設計を進めることができました。また、優秀作品を選ぶ際には、「作り手(設計)」「使い手(運営)」「守り手(管理)」の三者が一堂に会して議論したことで、こうした立場を超えたコミュニケーションがとれ、関係性が構築できました。

●「三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援業務」に関するコンサルティング(愛知県公立大学法人委託事業)

尾張旭市は、三郷駅前開発事業の推進に際し、愛知県立芸術大学とまちづくりに関する協定を締結しました。これを受け、りたは愛知芸術大学チームの一員として、再開発基本計画へ市民意見を反映するための各種デザインワークショップや社会実験、フォーラムの企画・運営を行いました。

これらのプロセスから、三郷駅前再開発事業で生まれる公共空間の活用促進や、駅周辺のまち育てを推進する市民まちづくりプラットフォームとして「35フレンズ」が生まれました。「グリーン分科会」など5分科会が組成され、テーマに基づく議論を重ね、駅前再開発に向けた市民提案をまとめ、再開発組合に提案しました。その一環で、未来の三郷駅前に生まれる公共空間のイメージを可視化すべく、三郷駅近傍にある商業施設の空地を借用して、社会実験「未来の三郷駅前を体験しよう」を開催し、焚火体験をはじめ、未来の駅前で実現したいアクティビティを試行的に行いました。

●公園緑地整備交付金事業費の内公園マネジメント会議運営補助業務(日本工営都市空間株式会社委託事業)

愛地球博記念公園マネジメント会議の会議ファシリテーション支援を行いました。2025年の万博20周年記念イベントの開催に向けて、別途実行委員会を発足することが決定しました。また、ここ数年課題となっていたコア会議や分科会の適正運用に関する考え方が整理され、ルールブックの改正をすることができました。



まち育て推進チーム／市民活動支援チーム

2023年度の事業(抜粋)

●公園愛護運営会設立支援等業務(岡崎市公園緑地課委託業務)

公園愛護運営会全10団体の9つの団体の関係者が集結し、各団体が抱えている運営上の課題や疑問をほかの団体から学ぶ形で意見交換をしました。参加者からは次回の参加を望む声が大きく、満足度の高い交流会となりました。

また、これまで延べ8年間の公園愛護運営会の設立支援を通じて蓄積されたノウハウをまとめたマニュアル「公園愛護運営会 設立の手引き」を作成しました。同手引きには、設立された公園愛護運営会の事例だけでなく、設立に至らなかった事例も掲載し、どのような支援が有効かを包括的に示しています。

マニュアルの主な読み手は岡崎市の担当職員を想定していますが、将来的には地域交流センター・市民活動センターにおける市民活動相談等でも活用することで、相談体制の充実を図りたいと考えています。



●地域包括ケアシステム支援業務(岡崎市ふくし相談課委託業務)

昨年度に引き続き、市内20の地域包括支援センターと共に、「地域包括ケアシステムの構築」および「地域共生社会の実現」に向けて、職員研修や広報支援、ケーススタディ等を行い、包括支援センターの人材育成やチームビルディング、学習・交流の機会の創出に寄りました。

今年度新たに行った入職5年以内の包括職員を対象とした新任職員研修では、生活支援コーディネーターに必要な地域診断やステークホルダーとの関係構築の方法についてワークショップ形式で意見交換をしながら学ぶと共に、包括職員同士の関係構築を図りました。



●QURUWAシンポジウム運営業務(岡崎市まちづくり推進課委託業務)

行政、地域住民・事業者、関連企業等が一体となって駅周辺まちづくりを推進するための機運醸成を図り、QURUWA戦略におけるエリアビジョン更新のヒントを得ることを目的としてシンポジウムを開催しました。開催当日には146名が参加し、一般市民、事業者、行政関係者等幅広い層に東岡崎エリアの将来像や「駅まちデザイン」の理念、つまり駅とまちの「物理的なつながり」のみならず、「機能的なつながり」や「産業のつながり」を生み出す包括的な「駅とまちのつながり」を重視する考え方を示すことができました。



●下山地域運営組織設立支援事業

(岡崎市下山学区地域づくり協議会受託業務)

下山学区の持続可能な地域づくりに向けて、岡崎市下山学区地域づくり協議会及び4つの部会(農用地保全、生活支援、地域資源活用、施設活用)の運営支援、行動計画の作成を行いました。体験農園「となりの田んぼ」の実施(ONE RIVERが企画・実施を支援)、YAMABIKO青空市・YAMABIKO食堂の実施、地域支えあい車両YAMABIKO号の運行、YAMABIKO通信の発行など、具体的なアクションが生まれました。



北部地域交流センター・なごみん



2023年度の事業(抜粋)

●市民活動サポート研修 おかざき市民活動情報ひろば活用研修

参加者数: 14団体23人

市民活動団体の情報発信の活性化を目的に、「おかざき市民活動情報ひろば」の活用方法を学び実践する研修を開催。ログインから困っている団体や動画投稿に挑戦したい団体など、マンツーマンで習熟度に合わせて講習したことで、受講者自身で更新できる状態にスキルを高められました。



●地域協働交流会～くらしまもる、逃げ遅れゼロへ[風水害編]～

参加者数: 15団体34人

防災をテーマに多様な組織が連携するきっかけとなる交流会を開催しました。防災課による講演、岩津地区夫人自主防災クラブ、認定NPO法人葵風の活動発表を通して地域の防災活動を学んだ上で、参加者が抱える災害への不安を出し合い、連携のきっかけを探りました。



●なごみん横丁

参加者数: 623人/ボランティア: 135人(うち協働企業・団体数: 4高校、2大学、6社、2団体)

市民活動団体や企業等と協働して、子どもたちが自ら考え行動するまちづくりイベントを開催しました。学校から企業まで多くのボランティアが参加し、子どもたちに「仕事」を提供したり、物品を提供したりするなど、多様な主体と協働し、子どもと地域の接点を創出しました。



●聾学校×地域 協力創出事業 「なごみんつながるプロジェクト」

参加者数: 4団体66人

岡崎聾学校と地域との連携を生み、地域活動の活性化を目的とした手話交流会を開催しました。今年度は、岩津太極拳クラブと協働し、太極拳を参加者全員で体験し、交流を深めました。



南部地域交流センター・よりなん



2023年度の事業(抜粋)

●市民活動サポート研修 はじめましてボランティア①～ボランティア理解編～

参加者数: 12人/ボランティア: 6人

ボランティアを正しく理解し、安全に楽しく活動できるようになるための知識を学ぶ研修を開催しました。ボランティア経験者による体験談の共有などを通して、今後のボランティアへの意欲増進につながりました。



●市民活動サポート研修 はじめましてボランティア②～ボランティア受け入れ団体編～

参加者数: 7団体8人/ボランティア: 2人

ボランティアの受け入れに必要な心得を学び、適切なボランティアマネジメントを習得するための研修を開催しました。ボランティア募集依頼を書くワークでは、マッチングにつながるやすい書き方のコツを学び、今後のボランティアの受け入れイメージを具体的なものにしました。



●地域とつながる協働交流会

参加者数: 24団体32人/ボランティア: 4人

福祉をテーマに地域と市民活動団体・事業者等の協働を創出することを目的とした交流会を開催しました。地域組織と市民活動団体に加え、事業者、地域包括支援センター等多様な主体が集まり、互いの活動を発信できたことで、30件以上の協働のきっかけを作ることができました。



●町内会サミット～まちのミライを語ろう会～

参加者数: 21団体27人/ボランティア: 10人

町内活動の負担軽減・活性化を目的に、事例や工夫点を共有する交流会を開催しました。上地区総代会の組織運営、矢作4区の防災活動、市防災課の取組の発表後、グループワークで多様な参加者の取組や考え方を共有しました。個々で抱え込まず役割を分担することが大切という意識を啓発できました。



西部地域交流センター・やはぎかん



2023年度の事業(抜粋)



●市民活動サポート研修 資金調達強化研修①②

①参加者数:3団体6名 ②参加者数:13団体15人

資金調達能力向上を目的に、実際の助成金や補助金を題材にした考え方や申請書の書き方を学ぶ研修会を2回にわたり開催しました。1回目は、赤い羽根共同募金ハッピーリンクを取り上げ、助成元と助成経験者の話をそれぞれ具体的に聞き、理解を深めました。2回目は、プレゼンのコツをテーマに、伝えたいことの整理方法や伝え方のコツなどを実践形式で学び、参加者のプレゼン力の向上につなげました。



●地域の子育て交流会

参加者数:33団体42人 / ボランティア:4人

子育てに関連する地域の組織・団体を中心に、市民活動団体との連携を生むための情報交換や市民へのPRを目的とした交流会を開催しました。地域での子育ての実態や課題を明確にするワークを通して、今後の活動に必要なことや協働の必要性を考える機会となりました。



●防災交流会～実践を視野にいたれた検討＆交流会～

参加者数:10団体66人/ボランティア:6人/出展:6団体12人

災害発生後に自分たちができることを考え共有する交流会を開催しました。災害時に、だれかに何かをしてもらうことを期待するのではなく、自分たちに何ができるかを考えたことで、防災を自分事に捉えることができました。また、同時に行ったギャラリー展示も好評で、次の防災イベントにつながりました。



●花のとう支援事業

参加者数:175人/ボランティア:7名/出展:2団体37人 ※やはぎかん担当ブース

矢作地域の伝統行事「花のとう」復活を目指す花のとう実行委員会をサポートし、開催に向けた検討や広報活動をともしに行いました。開催日前後には、花のとうの由来や伝統、地域とのつながりを市民に啓発する展示ブースを館内に設け、多世代に発信し、同行事を啓発しました。

東部地域交流センター・むらさきかん



2023年度の事業(抜粋)



●市民活動サポート研修 IT利活用研修①基礎編②応用編

①参加者数:12団体17人 ②参加者数:11団体16人

ITの利活用で業務負担を軽減し、活動そのものを充実させることを目的に、その活用方法を学ぶ研修会を2回にわたり開催しました。基礎編では、LINEやGoogleフォームを使用した団体の経験談を聞き、活用のコツを学ぶことができました。また、応用編では、ソフトバンク株式会社と協働して実際のスマホを使った演習をし、スマホの基本的な操作方法や団体運営に役立つアプリについて学び、効率的なIT活用への意欲を高められました。



●活躍人！交流会 ～SDGs事例発表会～

参加者:19団体22人/ボランティア4人

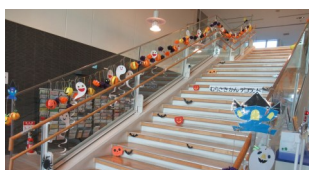
SDGsに取り組んでいるまたは、今後取り組みたい団体が集まり、意見交換をする交流会を開催しました。発表では、協働によりSDGsに関する活動が円滑に行えている事例を紹介し、その後のワークで自団体の課題や他団体に提供できることを考え意見交換をしたことで、相互理解と横のつながりを作るための機会を創出できました。



●むらさき麦まつり連携事業 市民活動博覧会

参加者:1029人/ボランティア:50人/出展:17団体47人

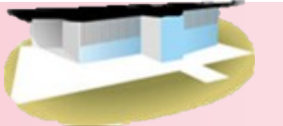
市民活動団体の体験、販売ブースや取組の紹介展示による活動啓発に加え、東部のまちづくり協議会による地域おこしの取組を発信するイベントを開催しました。藤川まちづくり協議会主催の「むらさき麦まつり」と同時開催し、連携をとったことで双方向の人の回遊が生じ、多様な層に市民活動や地域活動を啓発できました。



●むらさきかん館内装飾

年中行事や季節に合わせて、来館者参加型館内装飾を行いました。施設への愛着を深めると同時に施設運営への市民参画を促進させ、施設の取組への理解や協力意識の向上につなげました。

地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里



2023年度の事業(抜粋)



●市民活動サポート研修 人を巻き込む仕組みづくり研修①②

①参加者数11団体13人 ②参加者数:9団体10人

人を巻き込み、より活動を活性化させることを目的に情報発信やコミュニケーションについて学ぶ研修を開催しました。第1回は、共感を生む広報編とし、効率的かつ負担の少ない運用方法で共感を生む方法を、また第2回では、コミュニケーションをテーマに団体内外での信頼関係の築き方を学び、参加者の広報力の強化につながりました。



●ゆきファミリーパーク～親子で楽しく体験・交流～

参加者数:575人/出展数:17団体65名/ボランティア:42人

子育て支援の団体と協働して、子育て世代向けのイベントを開催しました。企画・運営を通じて子育て支援に関わる市民活動団体や事業者の相互理解の向上とネットワークの強化につながったと同時に、当日の体験等を通して参加者に対して子育てに関する有益な情報を発信できました。



●むつみ地域交流会

参加者数:21団体28人/ボランティア4人

昨年度の開催で「六ツ美4学区のつながりが希薄」という課題意識が表面化したことをうけ、地域包括支援センターと協働し、各学区の地域情報を出し合う交流会を開催しました。多くの情報を共有できたことで、各学区のことを知り関心を持つきっかけを提供しました。また、交流会の様子は情報誌を発行し、六ツ美4学区45町に回覧しました。



●ゆきサロン

活動団体と来館者の交流を目的とした、自己表現の場として、ふれあいホールでのサロンを再開。読み聞かせやミニコンサート、マジックショーなど多くの方に出演をしてもらうことで、より活発な交流の場を提供することができました。

りぶら市民活動センター



2023年度の事業(抜粋)



●市民活動情報の収集及び提供

チラシ等の受付:706件/メルマガ:対象団体285団体に年6回配布

ポスター・チラシの受付、掲示、配架に加え、市民活動団体向けのメルマガの発行、ホームページの更新を行いました。また、市民活動コーナーにモニターを設置し、市民活動に有益な情報を提供しました。



●市民活動支援

相談件数・情報ひろば入力支援:216件(延べ件数) 団体新規登録:10件

市民活動に関する相談対応や市民活動団体をつくりたい市民へのアドバイス、登録申請の受付、既存団体の登録、変更、廃止を行いました。



●まちびとバンク事業、まちびとステージ、もののものバンク事業

マッチング:5495件 (まちびとバンク事業)/4件(まちびとステージ)/20件(もののものバンク事業)

ボランティアをしたい市民とボランティアを必要としている団体をマッチングするまちびとバンク事業、自分の経験・特技を生かせる場所を探している個人と活躍場所のマッチングをするまちびとステージ、提供いただいた不用品と必要としている団体をマッチングするもののものバンク事業の3事業を実施し、活発な市民活動へ寄与しました。



●情報発信事業

〈まちのワ!〉発行回数:6回 〈東海愛知新聞〉掲載団体:108団体 〈市民活動団体PR動画作成〉2団体
地域交流センターと合同発行の「まちのワ!」において、取材や情報収集を行い、市民活動の活性化を目的とした記事を掲載しました。また事業者(東海愛知新聞社)と連携し、市民活動団体の紹介記事を東海愛知新聞に掲載し情報発信を行いました。ほかにも、岡崎商業高校と連携した市民活動団体PR動画作成の受付窓口となっています。